

おだわらの「木づかい」

# 3本の柱

## 小田原材の利用促進

地域産木材の利用促進に向けて

- 学校・公共施設への活用
- 公共土木事業への活用
- かまぼこ板、木工等、小田原ブランドの開発
- スギ・ヒノキを活用した木地師等による木工製品の技術開発



## 「木育」イベントや拠点整備

木育（もくい）とは…

身近な森とふれあひながら森を学び、地域の木を使っていくことで、森林や林業に対する理解を深める取り組み。

- 森林のはたらきから整備、木材利用に至る全般についての学習、啓発、支援
- 木育を促進するための拠点整備、施策（いこいの森など）



かながわ木づかい運動  
かながわ森林・林業活性化協議会では、県産木材の需要を拡大するために、神奈川県と連携し「かながわ木づかい運動」を推進しています。

## 木材流通加工拠点を小田原市に整備

森林の整備・搬出



おだわら木材流通センター など  
(貯木場・加工施設)



- 民間業者等への引渡し
- 公共事業への利用促進

地域産木材の利用促進

おだわらの「木づかい」が

地球を守る



木の温もりを感じるベンチ（箱根登山鉄道株 強羅駅）



このパンフレットについてのお問い合わせは…

おだわら森林・林業・木材産業再生協議会（小田原市農政課内）

〒250-8555 小田原市荻窪300番地 電話 0465-33-1491

小田原市ホームページ（森林・林業の取組）

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/municipality/industry/agricult/forest/>

県西地域県政総合センター協賛事業 パンフレット制作：アトリエいちのへ

2014.4



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

## おだわら森林・林業・木材産業再生協議会

# 「木を使う」ことは「地域の環境を保全」し「産業を再生」すること

～「森」は大地を潤し、川と海をはぐくむ～

## 森と海はつながっている ～森は海の恋人～

下の絵のように、森に降った雨は、森の土にしみ込んできれいになって、川に流れます。そして川から海へ。森があるから大地がうるおい、人間をはじめ魚や色々な生き物が生活できます。



「間伐」などにより伐採された木は、左下写真のように、角材や板材に加工されます。木を伐った後には、また木の苗を植えて育てる。こうしたサイクルが、森を守るためにはとても大切です。伐った木を家や家具などに使うことは、こうした資源の循環をつくりまします。さらに、木には炭素が閉じ込められているので、使うこと自体が、地球温暖化防止にも役立つのです。

## 木を伐る = 木をもっとライフスタイルへ!

### 森林にはいろいろなはたらきがある

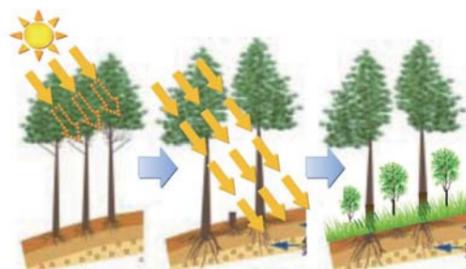


- 空気をきれいにし、豊かな水を育む。
- 人に憩いの場ややすらぎを与える。
- 森に生きる生き物だけでなく、川や海の魚にも食べ物や栄養を与える。
- 根っこが土を抑えて、山が崩れるのを防ぐ。

### 森を守るために「間伐」が不可欠!

小田原地域の多くの森は、人間の手で植えた「人工林」。野菜と同じように木を間引く「間伐」をすることで、木を太らせ、根っこを強くし、草や雑木を生やして土壌を保護する必要があります。これによって、山くずれを防いで、大地を潤す地下水を蓄えるのです。

現在、間伐材を使った「かまぼこ板」「ロールケーキの底板」、「木の葉書」、「お菓子の木箱」等を開発し、商品化しています。今後も木材利用の拡大を進めていきます。



## 小田原市における取組と木を使っている事例

### おだわら森林・林業・木材産業再生協議会

小田原では、平成23年に「おだわら森林・林業・木材産業再生協議会」を新たに立ち上げ、森林・林業に係る取組を本格的にスタートしています。特に、これまで、小田原はじめ県西地域の木材が、あまり流通していないという現状を踏まえ、流通を円滑化する仕組みづくりに加え「木づかい」の取組を積極的に進めているところです。

### 公共建築物等における木材の利用の促進

木材利用の拡大は、間伐を推進し、森林の整備・保全が図られるのみならず、地球温暖化防止にも資することになります。こうした観点から、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（平成22年法律第36号）が施行され、これに基づき、神奈川県では「公共施設の木造・木質化等に関する指針」（平成23年12月22日改正）が策定されています。本市においても、神奈川県の指針に則して「小田原市公共建築物における木材の利用の促進に関する方針」（平成24年2月29日）を策定し、今後、この方針に基づき、「隼より始めよ」の考えのもと、公共建築の新設、改築、改良等において、木材の利用拡大に努めるものとしています。こうした先行的な取組を進めながら、これと並行して、一般木造住宅の普及や一般家庭への木の文化の浸透に向けた取組等を通じて、民間ベースでの木材利用の推進・拡大を図っていくこととしています。



### 一夜城トイレ及び一夜城ヨロイツカファーム

一夜城のトイレを、構造材・内装含めて小田原の木材で建築（建築費約900万円・うち約500万円を県から補助）。看板も木材で製作。近隣のヨロイツカファーム（右下）も、小田原材による看板、塀、チップを利用。



### 早川小学校

校舎内の内装を木質化した。子どもの情操教育のみならず、木の雰囲気や視覚的なやさしさ等が子どもの癒しや落ち着きに繋がっているとの報告もある。学校林を利用した森林教室も実施。



## 事例

### 福島県相馬への支援

被災地支援の活動として、小田原市の官民連携団体「報徳の森プロジェクト」から、被災地の直売所兼レストランやパン屋の内装材として、小田原の木材を提供。木の香る空間として評価が高い。



### いこいの森キャンプ場への木造バンガロー建設

木造バンガロー5棟とウッドデッキを設置。地域の森林・林業・木材産業の産・官・学の関係者と職人技術の連携により基本構想から施工までを実施。今後、宿泊利用のみならず、イベントなどでも利用予定。

